

二〇〇二年司祭叙階式ミサ（含司祭・助祭志願者認定式）

導 入

解説者は次のように導入のことばをのべる。

解説者 皆様、本日はお忙しい中、アウグスチヌス川邨裕明さんの司祭叙階式、

ならびにアシジのフランシスコ申繁時さんの司祭・助祭候補者認定式
にご参列いただき、まことにありがとうございます。

叙階式、ならびに認定式を始めるにあたって、神の国の完成をめざす
わたしたちとともに歩むため、新たな働き手を送ってくださいました神に
感謝をささげましょう。希望のうちに新生の道を歩みつづける決意を
新たに、しばらく沈黙のうちに祈りましょう。

一同はしばらく沈黙のうちに祈る。

開 祭

入祭の歌

解説者　それでは皆様、お立ちください。ただいまより、池長潤大司教主司式による司祭・助祭候補者認定式を含む叙階式ミサがささげられます。
入祭の歌、典札聖歌102番「しあわせな人」を歌いましょう。

祭壇に向かう行列が通常どおり行われる。

行列の順は、①司祭・助祭候補者、②福音書を捧持する司祭、③司祭に叙階される者、④共同司式する司祭、⑤最後に司教。

祭壇に着くと一礼し、それぞれ定められた席に向かう。

あいさつ

司式者　父と子と聖霊のみ名によつて。

参加者　アーメン。

司式者　主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。
参加者　また司祭とともに。

回心

司式者 皆さん、感謝の祭儀を祝う前に、わたしたちの心をあらためましょう。

一同、沈黙のうちに祈る。

司式者 打ち砕かれた心を癒すために遣わされた 主よ、あわれみたまえ。

参加者 主よ、あわれみたまえ。

司式者 罪人を招くために来られた キリスト、あわれみたまえ。

参加者 キリスト、あわれみたまえ。

司式者 父の右の座にあつて、わたしたちのためにとりなしてくださる 主よ、

あわれみたまえ。

参加者 主よ、あわれみたまえ。

司式者 全能の神がわたしたちをあわれみ、罪をゆるし、永遠のいのちに導いて
くださいますように。

参加者 アーメン。

集会祈願

司式者 刈り入れのために働く人を送ってくださった、刈り入れの主に（向かって）祈りましょう。……

救いの源である父よ、あなたは御ひとり子を永遠の大祭司に立てられました。キリストによって、ことばと秘跡の奉仕者に選ばれた者を顧み、ゆだねられた奉仕の務めを忠実に果たすことができるよう、豊かな恵みをお与えください。聖霊の交わりのなかであなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

ことばの典礼

解説者 ご着席ください。これよりことばの典礼にはいります。

司教はミトラを着用して席に着く。

第一朗読

使徒パウロのフィリピの教会への手紙

わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと思わずにいます。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。わたしは、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。

奉仕者 神に感謝。

参加者 神に感謝。

答唱詩編

解説者 いまいただいた神のことばに応えて、答唱詩編（典礼聖歌53番）

「神のはからいは」を歌いましょう。

詠唱

解説者 お立ちください。今日わたしたちに告げられる福音を準備するため、

詠唱（典礼聖歌260番）を歌いましょう。

司教はミトラを脱ぎ、バクルスを手に起立する。そして前に進み出た福音朗読司祭に次のようなことばをのべて祝福する。

司 祭 祝福をお願いします。

司 教 主の福音をふさわしく告げるため、身も心も清めてくださいますように。十父と子と聖霊のみ名によつて。

司 祭 アーメン。

福音朗読

司 祭 主は皆さんとともに。

参加者 また司祭とともに。

司 祭 マルコによる福音。

参加者 主に栄光。

「そのとき、イエスは弟子たちに言われた。」「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

更に、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上の

どんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」

司 祭 キリストに賛美。
参加者 キリストに賛美。

司祭・助祭候補者認定式

解説者 ご着席ください。これより司祭・助祭候補者認定式にはいります。

司教は状況に応じてミトラを着けバクルスを持ち、司教座に座って説教をする。説教の中で、読まれた聖書の箇所から始めて、認定式の意味について、列席者に次のように語る。

司 教 皆さん、現在東京カトリック神学院に在籍しているアシジのフラシスコ申繁時さんは、叙階候補者として認定されるために、今日、神の民の前に立っています。わたしたちはこの兄弟を祈りも

って支えなければなりません。

キリストは、「収穫のために働き手を送ってくださいよう、収穫の主に願いなさい」とお命じになりました。この方は、ご自分の群れに対するわたしたちの主の心遣いを思い、教会の必要を考えて、主の招きに対して、かつての預言者と同じように、「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」とすすんで答える用意ができています。この方は、主に信頼し、その招きに忠実であるように主に希望をおいているのです。

主の招きの声は、さまざまなしるしによって理解され、識別されなければなりません。このようなしるしによって、主のみ旨は、日々、賢明な人々に明らかにされるのです。キリストの役務としての祭司職にあずかるよう神から選ばれる方を、主はご自分の恵みで導き、助けてくださいます。同時に、主は、候補者がふさわしいかどうかを確かめることをわたしたちにおゆだねになります。そして、ふさわしいと認めした後、この方を招き、聖霊の特別の

証印を押して、神と教会の奉仕のために叙階することになりま
す。この聖なる叙階によって、この方はキリストが世にあつて果
たされた救いのわざにあずかり、それを果たしていくのです。で
すから、やがてこの方はわたしたちの奉仕職に結ばれて教会に仕
え、自分が遣わされたキリスト教共同体を、ことばと秘跡によつ
てはぐくむのです。

ところで、アシジのフランシスコ申繁時さん、あなたはすでに東
京カトリック神学院に在学し、養成の道を歩み始めています。こ
の養成によって、日々、福音の模範に従って生き、信仰と希望と
愛のうちに確信を深めることを学んでください。そして、これら
を身につけ、祈りの精神を育て、すべての人をキリストのものと
するという熱意をはぐくんでください。

キリストの愛に駆り立てられ、聖霊の働きに強められて、あなた
は聖なる叙階を受けて神と人々への奉仕に身をささげたいという
願いを、今、公に示そうとしておられます。わたしたちは、この

願いを喜んで受け入れます。

あなたは今日から、自分の召命をさらに成長させなければなりません。とくに、あなたの召命を育てるよう定められた教会共同体が提供する手段を助けとして、また、支えとして用いてください。わたしたちは皆、主に信頼し、愛と祈りによつて、あなたの助けとなりたいと思っています。

それでは、名前を呼びますから、呼ばれた方は前に進み出て、教会共同体の前で自分の決意を表明してください。

教区養成担当司祭（比企潔神父）が志願者を呼び出す。

司 祭 アシジのフランシスコ申繁時。

志願者 はい。

志願者は司教の前に進み出て、一礼する。

ここで司教は次のように志願者に質問する。

司 教 アシジのフランシスコ申繁時さん、これまで養成にたずさわった司牧

者と先生たち、また、周囲の人たちは、あなたについてよい評価を

与えており、わたしたちも心からそう信じています。

あなたは主の招きに応え、将来、聖なる叙階を受けて、教会において奉仕職を果たすにふさわしい者となるよう準備することを望みますか。

志願者 はい、望みます。

司教 主キリストとそのからだである教会に忠実に仕えることができるよう、自分の心を整えていくことを望みますか。

志願者 はい、望みます。

司教 教会は喜んであなたの決意を受け入れます。あなたのうちに神が始めてくださったことを、神ご自身が完成してくださいように。

一同 アーメン。

解説者 お立ちください。

司教と一同は起立する。ミトラとバクルスを役務者に渡し、一同を祈りに招いて言う。

司教 主よ、わたしたちの願いを顧み、あなたに仕え、民に奉仕するため、聖なる奉仕職に身をささげることがを願うこのしもべを、いくしきをもつて祝福[†]してください。あなたの招きに生涯とどま

り、偽りのない愛によって、大祭司キリストに結ばれ、使徒としての務めをふさわしく受け入れることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

解説者 ご着席ください。

司教と一同は着席する。志願者は所定の席に戻る。

叙階の儀

解説者 続いて、司祭叙階の儀に移ります。

司祭候補者の選出

司 祭 司祭に叙階される方は、前に出てください。アウグスチヌス
川邨裕明。

受階者 はい。

司教の前に進み、一礼する。証言は教区養成担当司祭（比企潔神父）が行う。

司 祭 司教様、母なる教会は、この兄弟を司祭に叙階してくださるよう

に

願っています。

司 教 この兄弟は司祭にふさわしい人ですか。

司 祭 これまでこの兄弟をはぐくみ、生活をともにしてきた共同体の皆さんと司祭養成にかかわってきた方々にご意見をうかがったうえで、この兄弟が司祭にふさわしい者であることを証言いたします。

司 教 それでは、主なる神とわたしたちの救い主イエス・キリストの助けによつて、この兄弟を、司祭団に加えることにします。

司 祭 神に感謝。

一 同 神に感謝。

賛同のしるしとして一同は拍手をする。

この後、受階者は訓話を聴くために席に戻る。

訓話

皆さん、この方は、間もなく司祭団に加えられます。そこで、この兄

弟が、どのような奉仕の務めを行うために叙階されるのか、ともに考えてみましょう。

この方は最高の師であり、祭司であり、牧者であるキリストに仕え、キリストの奉仕職によってそのからだである教会は、神の民、聖霊の神殿として、この世でたえず築かれていきます。この方は、福音をのべ伝え、神の民を聖化し、とくに主の奉獻による神への礼拝を司式するために、司祭に聖別されます。このすべての務めを神の助けによって果たし、仕えられるためではなく仕えるために来られたキリストのまことの弟子であることを示してほしいと思います。

さて、司祭に叙階される川邨裕明さん、あなたは師であるキリストにおいて、司祭として教え導くという聖なる務めに携わる者となります。

自分自身が喜びをもって受け入れた神のことばを、すべての人に分け与えてください。そして、神のことばを黙想し、読んだことを信じ、信じたことを教え、教えたことを実行するように心がけてください。そして、あなたの教えが神の民の糧となり、日々の行いがキリストを信じる人々の

喜びとなつて、ことばと模範をとおして、神の家である教会を築いてください。

また、あなたはキリストにおいて、人々を聖なる者とする務めを果たす者となります。この奉仕職によつて、信者の霊的奉獻は、キリストの奉獻に結ばれて完成されます。

キリストの奉獻は、あなたの手をとおして信者とともに祭壇の上で、秘跡として祭儀のうちにささげられるのです。ですから、自分が行うことをわきまえ、それを生活の中で生かし、主の死と復活の神秘を祝う者として、自分自身のあらゆる悪に対しては死んだ者となり、新しいのちのうちに歩むよう努力してください。

あなたは、洗礼によつて人々を神の民に加え、ゆるしの秘跡によつてキリストと教会の名のもとに罪をゆるし、聖なる油によつて病者を助け、聖なる祭儀を司式します。また、神の民と全世界のために、感謝と願いをこめて、日々定められた賛美の祈りをささげます。こうした奉仕の務めを果たすとき、あなたは自分が神に仕える者として人々の中から召され、人々

のために立てられたということを思い起こしてください。そして、自分のことではなくキリストのことを考えて、永遠の祭司キリストの務めを、まことの愛のうちに、喜びをもって果たしてください。

ところで、今日の第一朗読から、私たち司祭として生きるものにとって、大変有益な示唆を与える、「わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。」と言うパウロの言葉について考えてみましょう。ここで急になまなましくなりますが、パウロの語る使徒としてのあり方や生活は、そのまま生身で生きるパウロ自身の自己表現でもあるのです。だから、「キリスト・イエスを知る知識」と彼が言うのと、それはただ頭で知ってゆく知識とはまるで違っています。ダマスコ途上でイエスと出会って圧倒されてからは、使徒としての日々の生活の中で、イエスの心と思いには促されるままに生き抜こうとして、それこそイエスとの交わりの中で歩み続けました。こうして、イエスをますます深く知ろうとして生きるうちに、イエスの人びとを救う

ための苦難の僕の姿に行きつくのです。パウロの毎日毎日が宣教のため
の労苦に満ち、これが「キリスト・イエスを知る知識」でも、とくに「十
字架につけられたキリスト」の知識となり、そこにこそ、人間にとっての
最高の英知を見出します。

私たちすべての司祭もそうですが、川邨さんも司祭に召された時、イエ
スは、たしかに、人びとを救うために、他の一切を放棄して、イエスの心
と日々の労苦を受けとり、こうすることによって、実際のイエスとの交わ
りを通して、ますますイエスを知ってゆくように求められています。お互
いにこの召し出しをまっとうできれば仕合せです。

最後に、頭であり牧者であるキリストの務めをそれぞれの立場で果たし、
司教と心を合わせ、司教に従って、信者たちが一つの家族となるよう努力
してください。こうして信者たちを、キリストによって、聖霊のうちに、
父である神のもとへ導くことができます。そして、仕えられるため
ではなく、仕えるために来られ、失われていたものを探し求めて救いに導く
ために来られた、よい牧者キリストにならって生活してください。

司祭に叙階される者の約束

司祭に叙階される者は立ち、司教の前に進み出る。

司 教 アウグスチヌス川邨裕明さん、司祭団に加わる前に、これからあなたに与えられる司祭の務めを受け入れる決意を、ここに列席されている方々の前で表明してください。

あなたは、聖霊の導きのもとに主の群れを牧するにあたり、司教団のよい協力者となって、司祭団の一員として与えられた祭司としての務めをたえず果たしますか。

受階者 はい、果たします。

司 教 あなたは、福音をのべ伝え、カトリックの信仰を表すことによって、神のことばに奉仕する務めを誠実に果たしますか。

受階者 はい、果たします。

司 教 あなたは、神を賛美し信じる民を神に導くために、キリストの秘義、とくに感謝の祭儀とゆるしの秘跡を、教会の伝統に従って敬虔

に

正しく執り行いますか。

受階者 はい、行います。

司 教 あなたは、たえず祈るようにとの主のご命令に従い、自分にゆだねられた民のために、わたしたちとともに神のあわれみを祈りますか。

受階者 はい、祈ります。

司 教 あなたは、教会共同体の助けのもとに、貧しい人、苦しむ人、助けを必要とするすべての人に、主の名において、神のいつくしみを示しますか。

受階者 はい、示します。

司 教 あなたは、司教とのきずなの中で、尊敬の心をもって、司教に従うことを約束しますか。

受階者 はい、約束いたします。

司 教 あなたは、わたしたちのためにご自分を清いささげものとして御父にささげた大祭司キリストに日ごとに固く結ばれ、キリストとともに

に自分自身を、人々の救いのために神にささげますか。

受階者 はい、神の助けによってささげます。

司教 あなたのうちに、よいわざを始めてくださった神ご自身が、それを完成してくださいますように。

連願

解説者 皆さん、お立ちください。

一同は起立する。

司教はミトラをとり、立ったまま両手を合わせ、参加者に招きのことばを述べる。

司教 皆さん、全能の父である神が、司祭の聖なる職階に上げてくださるこのしもべに、祝福の恵みをいつくしみのうちに注いでくださるよう祈りましょう。

解説者 受階者は神の慈しみを願って床（ゆか）に伏します。

受階者は床に伏し、一同は起立して連願を歌う。

解説者 神の恵みを求めて連願をささげましょう。典礼聖歌 343 番（です）。

「主よ、あわれみたまえ。」

「キリスト、あわれみたまえ。」

「主よ、あわれみたまえ。」

「神の母聖マリア」

「聖ミカエル」

「聖なる神の使い」

「洗礼者聖ヨハネ」

「聖ヨセフ」

「聖ペトロと聖パウロ」

「聖アンデレ」

「聖ヨハネ」

「マグダラの聖マリア」

「聖ステファノ」

「聖アウグスティヌス」

「主よ、あわれみたまえ。」

「キリスト、あわれみたまえ。」

「主よ、あわれみたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「われらのために祈りたまえ。」

「アシジの聖フランシスコ」

「われらのために祈りたまえ。」

「聖フランシスコ・ザビエル」

「われらのために祈りたまえ。」

「聖なる日本の殉教者」

「われらのために祈りたまえ。」

「神のすべての聖人と聖女」

「われらのために祈りたまえ。」

「いつくしみ深く」

「主よ、われらを救いたまえ。」

「すべての罪より」

「主よ、われらを救いたまえ。」

「主の受肉によりて」

「主よ、われらを救いたまえ。」

「主の死と復活によりて」

「主よ、われらを救いたまえ。」

「聖霊の注ぎによりて」

「主よ、われらを救いたまえ。」

「願わくは、主の聖なる教会を治め、保ちたまわんことを。」

「主、われらの祈りを聞きたまえ。」

「教皇とすべての教役者を、すべてのの一致のうちに保ちたまわんことを。」

「主、われらの祈りを聞きたまえ。」

「この選ばれし者を祝福し、聖化し、聖別したまわんことを。」

「主、われらの祈りを聞きたまえ。」

「すべての民を平和と一致のうちに保ちたまわんことを。」

「主、われらの祈りを聞きたまえ。」

「苦難のうちにある者に、あわれみを与えたまわんことを。」

「主、われらの祈りを聞きたまえ。」

「生ける神の子、イエス。」

「主、われらの祈りを聞きたまえ。」

「キリスト、われらの祈りを聞きたまえ。」

「キリスト、われらの祈りを聞きたまえ。」

「キリスト、われらの祈りを聞きたまえ。」

「キリスト、われらの祈りを聞きたまえ。」

司 教 主なる神よ、いつくしみをもってわたしたちの祈りを聞き入れて

ください。わたしたちに与えられた務めをふさわしく果たすこ

とができるよう、あなたの豊かな恵みによって助けてください。

聖なる奉仕職にたずさわるよう選ばれたこの者を、あなたの祝福

によって聖なる者としてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

司祭叙階

解説者 お立ちください。司祭叙階の典礼に移ります。

続いて、司祭に叙階される者が進み出る。

嘆願の祈り

司教はミトラをとり、立って、参加者に次のような招きのことばを述べる。

司教 皆さん、全能の父である神が、司祭の務めを果たすためにお選びになつたこのしもべに、天からのたまものを豊かに与えてくださるよう祈りましょう。

一同はしばらくの間、沈黙のうちに祈る。

按手と叙階の祈り

解説者 受階者に、司教および司祭団からの按手がなされます。

受階者は、ミトラを着けて立っている司教に一人ずつ近づき、その前にひざまずく。司教は受

階者一人ひとりに黙って按手する。

引き続き、列席するすべての司祭はストラを着け、受階者一人ひとりに同じように按手する。按手の後、司祭たちは、叙階の祈りが終わるまで司教の周囲にとどまる。

続いて司教はミトラをとり、両手を広げて叙階の祈りを唱える。

司祭は叙階の祈りの間、合掌して司教の周りに立つ。

司 教 聖なる父、全能永遠の神よ、今こそ力を表わしてください。

あなたは人間を尊いものとして造り、すべての恵みを分け与えてくださる方。

万物はあなたによつてはぐくまれ、強められます。

あなたは祭司の民を形づくるために、この民の中に、聖霊の力によつて、さまざまな務めを担うキリストの奉仕者をお立てになりました。

すでに旧約時代から、神の働きによつて奉仕の務めは豊かになつていきました。

あなたは民を導き、聖なる者とするために、モーセとアロンを民

の上を立て、彼らを助け、ともに働く人々を民の中からお選びになりました。

こうして荒れ野にあつて智慧に富む七十人の人々に、モーセが受けた霊を分け与えてくださいました。

彼らの助けによつて、モーセはあなたの民をよりよく導くことができました。

また、あなたは、アロンの子孫にも、その父に与えられた満ちあふれる恵みを授け、いけにえをささげる祭司を数多く与えてくださいました。

聖なる父よ、時が満ちてあなたは御子を世にお与えになりました。この方こそ、あなたから遣わされた方、わたしたちが信じる大祭司イエス・キリスト。

イエスは聖霊によつて、自らをあなたにおささげになりました。そして使徒たちを真理によつて聖なる者とし、ご自分の使命にあずからせてくださいました。

神よ、あなたはさらに使徒とともに働く人々を選び、全世界に

いのわぎを告げ、これを実現することをお望みになりました。

主なる神よ、使徒から受け継いだ司教の務めを果たすには力の足りないわたしを顧み、かつてモーセとアロンになさったように、今わたしにもこの人を必要な助け手としてお与えください。

全能の父よ、あなたに仕えることを望むこの人を司祭団に加え、すべてを聖とする霊を新たに注いでください。

司教に協力する務めを授かり、日々の生活の模範によってすべての人を正しい道に導くことができますように。

この人が、司教団のよい協力者となり、その宣教の働きをおして、福音のことばが地の果てまで伝えられ、聖霊の恵みによって人々の心に実りを結びますように。

わたしたち司教とともに、心をこめて秘跡を行うことができますように。

こうして、あなたの民が洗礼を受けて新たないのちを与えられ、主の食卓で養われ、罪がゆるされ、病いのときには力づけられますように。

主なる神よ、司祭となったこの人が、わたしたち司教と心を合わせ、自分にゆだねられた人々と全世界のために、あなたのあわれみを心から祈り求める者となりますように。

こうして、すべての人がキリストのうちに集められ、一つの民となり、神の国の完成にあずかることができますように。

聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

司祭服の着衣

解説者 ご着席ください。

一同は着席し、司教はミトラを着ける。

新司祭は起立し、列席する司祭たちは席に戻る。

解説者 叙階の恵みを受けた新司祭は、香里教会主任司祭三竹洋一神父
に

よって、司祭の祭服とストラを着用します。

新司祭のストラを司祭の形に直し、カズラを着せる。

塗油、パンとぶどう酒の授与

解説者 新司祭の手のひらに聖香油が注がれます。

司教はひざかけを着け、自分の前にひざまずいている新司祭の手のひらに聖香油を塗りながら言う。

司 教 御父は聖霊の力によつて、主イエス・キリストに油を注がれました。信じる人々を聖なる者とし、感謝の祭儀をささげるために選ばれたあなたを、キリストが守ってくださいますように。

続いて司教と新司祭は手をすすぐ。

解説者 パンとぶどう酒が手渡され、キリストの十字架にならつて自らを御父にささげる務めがゆだねられます。

パテナに載せたパン、ならびにぶどう酒と水を入れたカリスが運ばれる。

脇司祭はこれを受け取り、司教のところに持って行く。

司教は自分の前にひざまずいている新司祭にこれを渡して言う。

司 教 神にささげる聖なる民の供えものを受けなさい。あなたがこれから執り行うことをよくわきまえ、それにならない、主の十字架の神秘にかなう生活を送りなさい。

司教は新司祭にふさわしい歓迎の言葉を述べる。

続いて、司教は列席するすべての司祭に向かって、新司祭を歓迎するような言葉で勧める。

司 教 司祭のみなさん、新しい司祭を兄弟として迎えてください。

列席する司祭は拍手をもって、新司祭を歓迎する心を表す。

感謝の典礼

奉納行列と歌

解説者 これより感謝の典礼にはいります。ささげものが祭壇にそなえられるあいだ、奉納の歌（典礼聖歌144番）「谷川の水を求めて」を歌いましょう。

奉納祈願

パンとぶどう酒が司教に手渡される時、

解説者 お立ちください。

司式者 この供えものとわたしたちのすべてを、主が受け入れてくださるよう
に祈りましょう。……

聖なる父よ、あなたに仕えるために叙階を受けた人を顧みてください。
ここにささげられるキリストの奉獻によって、司祭の奉仕がみこころにかなう
ものとなり、あなたの民の中に豊かな実りをもたらすことができます
ように。わたしたちの主、イエス・キリストによって。アーメン。

叙唱

司式者 主は皆さんとともに。

参加者 また司祭とともに。

司式者 心をこめて神をあおぎ、

参加者 賛美と感謝をささげましょう。

聖なる父、全能永遠の神、いつどこでも主キリストによつて賛美と感謝をささげることば、まことにとうといたいせつな務めです。

あなたは聖霊を注いで、ひとり子を永遠に新約の大祭司としてお立てになり、教会の中に唯一のキリストの祭司職が保たれるよう、お定めになりました。主キリストは神の民に祭司職を与え、奉仕の務めにたずさわる人々を選んで祭司としてくださいました。

祭司は、キリストの名によつて人々のために過越の食事を整えて、救いのいけにえをささげ、ことばと秘跡によつて神の民を力づけるように召されています。

また祭司は、神のため、人々のために自らを渡して、キリストに従い、たゆみなく信仰と愛のあかしを立てるように選ばれています。

聖なる父よ、この豊かな恵みに対する感謝をこめて、わたしたちも天使と聖人とともにあなたをたたえ、喜びをもつて歌います。

感謝の賛歌

解説者 感謝の賛歌を歌いましょう。

奉献文

まことにとうとくすべての聖性の源である父よ、
いま、聖霊によってこの供えものを
とうといものにしてください。

わたしたちのために主イエス・キリストの
御からだと+御血になりますように。

主イエスはすすんで受難に向かう前に、
パンを取り、感謝をささげ、
割って弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを取って食べなさい。

これはあなたがたのために渡される
わたしのからだである。」

食事の終わりに同じように杯を取り、

感謝をささげ、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。」

これはわたしの血の杯、

あなたがたと多くの人のために流されて

罪のゆるしとなる、新しい永遠の契約の血である。

これをわたしの記念として行いなさい。」

司式者 信仰の神秘。

参加者 主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで。

わたしたちはいま、

主イエスの死と復活の記念を行い、

ここであなたに奉仕できることを感謝し、

いのちのパンと、救いの杯をささげます。

キリストの御からだと御血に、ともにあずかるわたしたちが、

聖霊によって一つに結ばれますように。

(協司祭①)

世界に広がるあなたの教会を思い起こし、

わたしたちの教父ヨハネ・パウロ二世、わたしたちの司教レオ池長潤、

ミカエル松浦悟郎、今日、あなたのお望みによって叙階されたこのしもべ、す

べての教役者をはじめ、全教会を愛の完成に導いてください。

(協司祭②)

また復活の希望をもって眠りについたわたしたちの兄弟姉妹とすべての死者

を心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。

(協司祭③)

なお、わたしたちをあわれみ、神の母おとめマリアと使徒をはじめ、すべての

時代の聖人とともに、永遠のいのちにあずからせてください。

御子イエス・キリストをとおしてあなたをほめたたえることができますように。

キリストによってキリストとともにキリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、世々に至るまで、
アーメン。

交わりの儀

主の祈り

司式者 神の国の完成を待ち望みながら、つつしんで「主の祈り」をささげ
ましよう。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください。

世界に平和を願う祈り

司式者 いくつしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、全世界に平和をお与えください。あなたのあわれみに支えられ、罪から解放されて、すべての困難に打ち勝つことができますように。わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを待ち望んでいます。

参加者 国と力と栄光は限りなくあなたのもの。

教会に平和を願う祈り

司式者 主イエス・キリスト、あなたは使徒に約束されました。「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和をあなたがたに与える」。わたしたちの罪ではなく、教会の信仰を顧み、おことばの通り教会に平和と一致をお与えください。

参加者 アーメン。

平和のあいさつ

司式者 主の平和がいつも皆さんとともに。

参加者 また司祭とともに。

脇司祭 たがいにも平和のあいさつを交わしましょう。

参加者 主の平和。

平和の賛歌

解説者 平和の賛歌を歌いましょう。

拝領前の信仰告白

司式者 神の小羊の食卓に招かれた者は幸い。

参加者 主よ、あなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧、あなたをおいて

誰のところに行きましよう。

拝領の歌

解説者 ご着席ください。カトリック信者で聖体拝領を望まれる方は、前列より司祭の前にお進みください。また、洗礼を受けておられない方で、祝福を希望される方は司祭の前で両手を合わせ、頭をお下げください。拝領の歌をうたいましょう。「マラナタ」（です）。

以下、拝領の歌は「主の恵みに今」、「主は水辺に立った」と続く。

拝領祈願

解説者 お立ちください。

司式者 いただいた恵みに感謝して祈りましょう。……

いづくしみ深い父よ、キリストの奉献を記念し、主の食卓にあずかって祈ります。すべての信者が、奉仕者とともにまことの愛のうちに一つに結ばれ、心からあなたに仕えることができますように。わたしたちの主、イエス・キリストによって。アーメン。

閉 祭

新司祭の紹介とあいさつ

解説者 ご着席ください。ここで、今日叙階された新司祭をあらためて皆さんにご紹介いたします。

以下、神学生養成担当司祭（比企潔神父）の進行により、

・新司祭の紹介とあいさつ

あいさつ

まず、亡くなった私の母に感謝したいと思います。私を信仰へと導いてくれたのは母でした。そして、今現在の父と母にも感謝しています。あらゆる面で支えてもらっています。私の兄弟と親類も同じように私を支えてくれます。また、私のために祈り支えて下さっているすべての方々には感謝します。今日私がおここに居るのは、皆様のお祈りと励ましのお陰です。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

町では今ワールドカップを前に、あちこちでカウントダウンが行われています。それを見て、またこの叙階式前に、仁豊野ヴィラで引退された神父様方

と過ごしていて考えたことがあります。

それは、私が司祭になつて何年位働けるだろうかということでした。仮に、七十五歳まで元気に働けるとして、約三十年あります。一年三百六十五日をかけて日になおすと、一万九百五十日になります。つまり、私が神父としてまともにも働けるのは、だいたい一万日と少し位しかないのです。そしてそれが今日から一日一日と減っていく訳です。カウントダウンが始まるのです。ワールドカップのカウントダウンなんかわくわくしますが、私のはあまり楽しいものではありません。しかもこの一万日は誰からも保証されていないので、病気などで短くなってしまうことも有り得ますし、逆に、幸いにも伸びることも有り得ます。そのように考えますと、これからの一日一日がとても貴重で大切だということがわかってきます。今日、司祭叙階という大きなスタートを迎えて、これ

からますます一日一日を大切に、神の御旨に忠実に従い、人びとへの奉仕を続けてまいりたいと改めて決心を固めている次第です。どうか、今後ともつたない私を祈り支え続けてくださいますようお願いします。本日は誠にあり

がとうございました。

・召命担当者による神学生の紹介
などが、行われる。

派遣の祝福

解説者 皆さん、お立ちください。池長大司教より、新司祭、そして今日ご
参列くださった皆様への、派遣の祝福をいただきます。

司教は新司祭、そして会衆の上に手を伸べて祝福する。

司 教 教会をたて、導かれる神が、その恵みによっていつもあなたがたを
守り、司祭の務めを忠実に果たさせてくださいますように。

参加者 アーメン。

司 教 司祭に、キリストの福音を告げ知らせる務めをお与えになった神が、
あなたがたを助け、みことばに従って生きる誠実な神のあかし人とし
てくださいますように。

参加者 アーメン。

司 教 神が司祭を、いのちのパンといのちのことばを信者に与えるまことの牧者とし、信じる人々がただ一つのキリストのからだとしてますます成長していきますように。

参加者 アーメン。

司 教 全能の神、父と子と聖霊の祝福が + 皆さんの上にありますように。
参加者 アーメン。

新司祭 感謝の祭儀を終わります。行きましよう、主の平和のうちに。
参加者 神に感謝。

派遣の歌

解説者 大司教ならびに司祭団が退堂します。閉祭の歌を歌いましょう。

「行け 地の果てまで」（です）。